

1 基本構想策定について

1.1 基本構想策定の背景・目的

現総合体育館は、昭和 60 年 11 月に地域文化広場を構成する半田市施設として、空の科学館との複合施設として建設されました。アリーナ（43m×33m）、卓球室（21m×33m）、体育室（16m×33m）などの施設で構成され、各種大会や教室の開催等、気軽にスポーツに親しむ市民の活動の場所として利用され、多くの市民に親しまれています。

一方で、アリーナの休日予約は飽和状態であり、駐車場の不足により大会開催時には路上駐車が続かないなど、総合体育館として規模が十分でないという状況があります。また、冷暖房設備が整備されておらず利用者の身体的負担に繋がっていることや、バリアフリー化が進んでおらず高齢者や障がい者が利用しづらいなどの課題があり、市民・利用者や競技団体からのニーズを満たしていません。

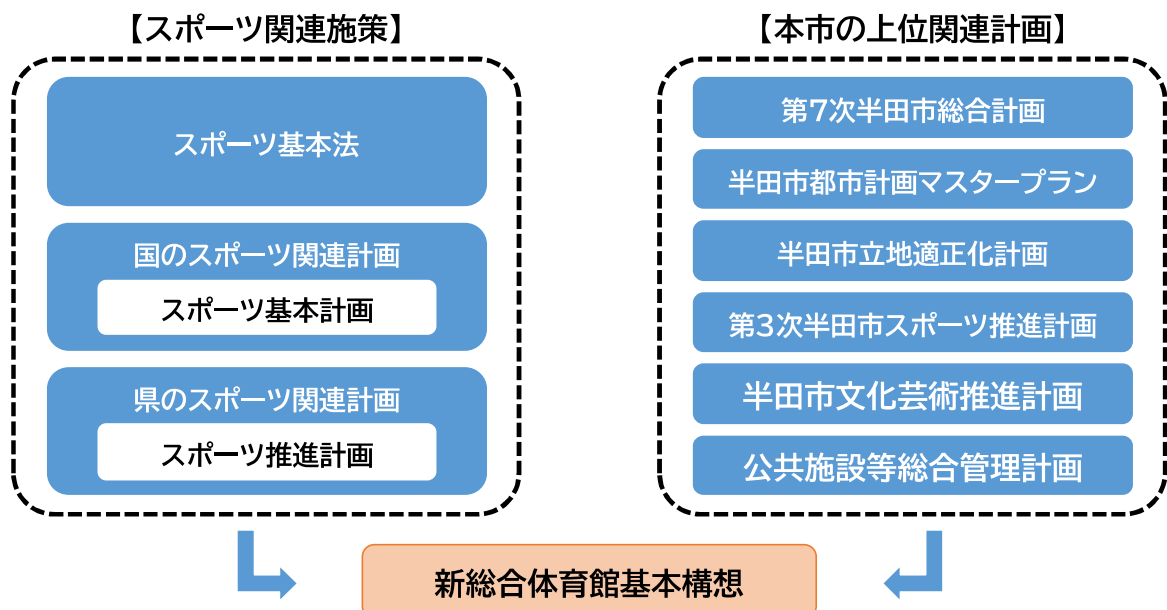
このような状況から半田市スポーツ協会から新体育館建設についての要望が出ており、必要な設備や機能を備えた新総合体育館の整備を進めることが求められています。新総合体育館の整備にあたっては、競技スポーツをはじめ、子どもの健全育成や健康づくりなど、様々な効果が期待できるスポーツ振興の一環として、誰もが安心・安全に利用できる施設づくりが必要と考えられます。

本構想は、市民等のニーズを踏まえ、新総合体育館に求められる機能や設備・規模を明らかにし、整備候補地を選定したうえで、新総合体育館の在り方について、基本的な考え方をとりまとめることを目的とします。

1.2 本構想の位置づけ

本基本構想では、「第7次半田市総合計画」を最上位の計画とし、これに基づくスポーツ推進計画や文化芸術推進計画、公共施設等総合管理計画など市の上位計画・関連計画を踏まえた検討を行います。

また、スポーツ基本計画をはじめとした国や県の関連計画も踏まえた検討を行います。



1.3 上位関連計画等の整理

上位・関連計画等における地域のスポーツ振興等についての記載を以下の通り整理します。

1.3.1 国における関連計画

第3期スポーツ基本計画（令和4年3月）

- スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「自発的な」参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に本質を持つものとしています。
- 国民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すには、以下の3つの新たな視点が必要としています。
 - つくる / はぐくむ
社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し・改善し、最適な手法・ルールを考え、作り出す。
 - あつまり、ともに、つながる
様々な立場・背景・特性を有した人・組織が集まり課題の対応や活動の実施を図る。
 - 誰もがアクセスできる
性別や年齢、障がい、経済・地域事情等の違いによって、スポーツ活動の開始や継続に差が生じないような社会の実現や機運の醸成を図る。

1.3.2 県における関連計画

愛知県スポーツ推進計画 2023-2027（令和5年3月）

- 愛知県のスポーツ振興に関する中長期的な展望と、総合的な施策を示すもので、「目指すべき姿」として以下の3つを挙げています。
 - ① すべての人が生涯にわたりスポーツに関わり、スポーツにより人と人とがつながる。
 - ② 世界で活躍するトップアスリートを継続的に輩出し、夢や感動を分かち合う。
 - ③ スポーツを通じて世界から人を呼び込み、交流を生み出し、持続的に成長する。

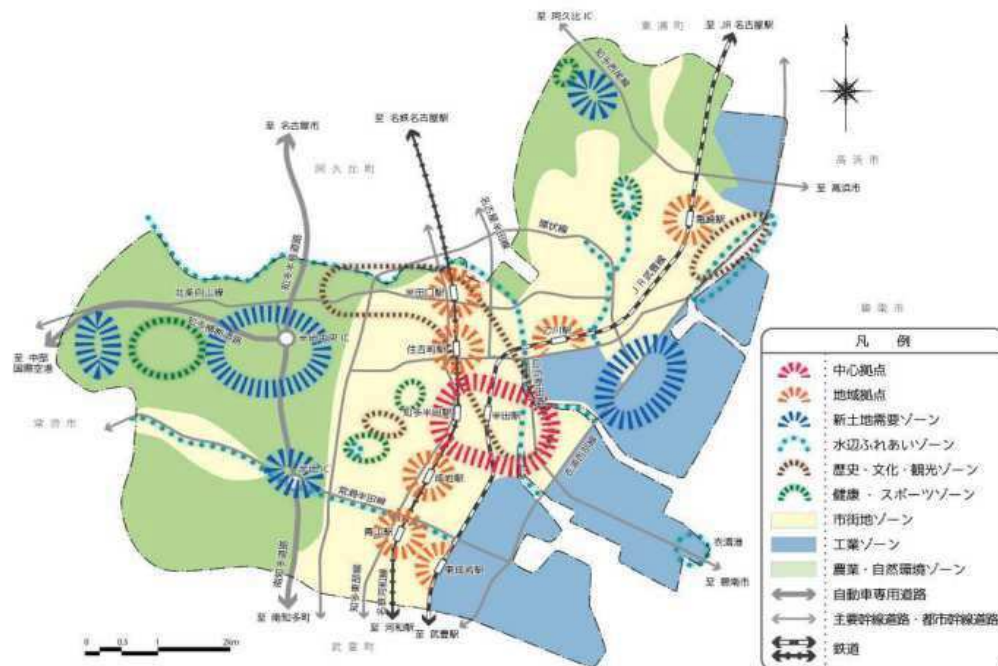
1.3.3 市における関連計画

第7次半田市総合計画（令和3年3月）

- 本計画の計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間であり、「あらゆる主体のチャレンジ機会の提供・支援」「子育て世代の定住促進」など10項目から成る主要課題を整理しています。
- 基本的な方向の一つとして「つながり助けあう 健康と笑顔を育むまち」を掲げ、市民がスポーツを生涯にわたり気軽に親しめるよう、関係機関と連携・協力して市民の健康増進と笑顔につながる取組を進めるとしています。

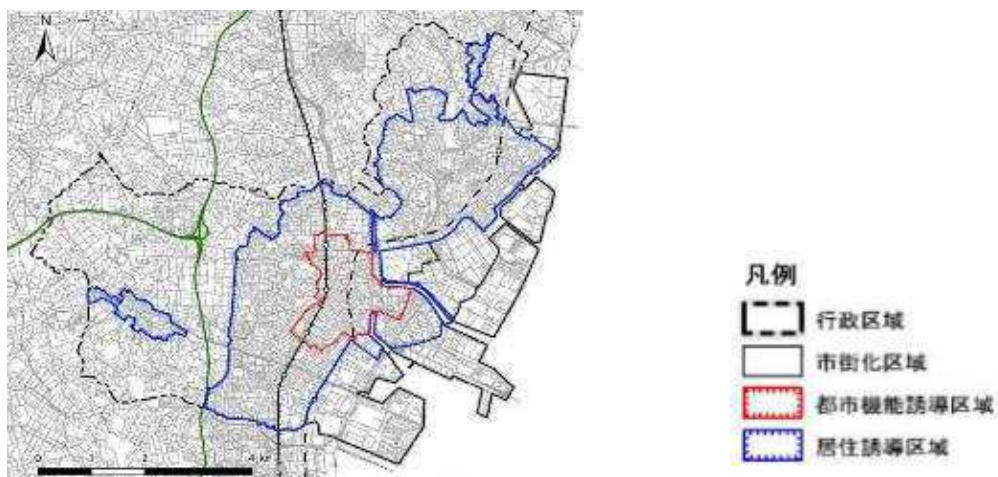
半田市都市計画マスタープラン（令和3年3月）

- 本計画の目標年次は令和12年度で、都市づくりの基本理念を「活気にあふれた、暮らし続けたい都市・はんだ」としています。
- 基本理念の実現に向けて「高い利便性を確保し、選ばれる都市づくり」などから成る5つの目標を設定しており、下記の通り将来都市構造を設定しています。



立地適正化計画（令和3年3月）

- 本計画の目標年次は令和22年度であり、市内全域を対象として策定されています。
- 効率的なサービス提供のために、都市機能を誘導し集積すべき「都市機能誘導区域」と、人口密度を維持するための区域である「居住誘導区域」を下記の通り設定しています。



- 本市の都市機能誘導区域に立地を誘導すべき誘導施設として、保健センター、文化ホール、延床面積3,000㎡超の商業施設、子育て支援センター、地域包括支援センター、障がい者相談支援センター、福祉センター、市役所が設定されています。

スポーツ推進計画（令和3年3月）

- 本計画の計画期間は令和3年度から令和12年度までの10年間であり、「だれでも」「いつでも」「どこでも」「いつまでも」気軽にスポーツに親しむことができる社会すなわち「生涯スポーツ社会」の実現を図ることを基本理念として掲げています。
- 次の二つを計画の目標値に定め、達成に向けて「活動プログラムの充実」「スポーツ施設の整備・活用」「総合型地域スポーツクラブ活動の充実」などから成る7つの施策を柱として推進するとしています。
 - 成人市民のスポーツ実施率（週1回以上スポーツをする人の割合）を現状の43.3%から65.0%に引き上げる。
 - 総合型地域スポーツクラブ会員数を現状の7,487人から8,000人に増やす。
- 「活動プログラムの充実」については、市民がスポーツに親しむことができ、また、スポーツに取り組むきっかけづくりとなるようなスポーツプログラムを充実させるとしています。また、スポーツ人口を増やすために、半田市スポーツ協会、半田市スポーツ推進委員連絡協議会、総合型地域スポーツクラブなどのスポーツ関係団体の活動の支援も行うとしています。
- 「スポーツ施設の整備・活用」については、施策内容として学校体育施設開放事業の促進、バリアフリー化、施設予約システムの利用促進、施設の効率的かつ有効的な利用などが挙げられており、スポーツ以外の用途も含めた利用促進を図るとされています。
- 「総合型地域スポーツクラブ活動の充実」については、総合型地域スポーツクラブへの支援として、社会体育施設の管理業務の委託先として総合型地域スポーツクラブを優先し、新規事業の展開による運営の安定化を支援することなどが挙げられています。

文化芸術推進計画（令和4年3月）

- 本計画の計画期間は令和4年度から令和13年度までの10年間であり、「アートの力で”プラスワン”あふれる市民生活の醸成を」を基本理念とし、観光・教育・福祉・まちづくりなど、幅広い分野において文化芸術の活用を推進していく指針として策定されています。

公共施設等総合管理計画（平成29年3月）（令和4年5月改定）

- 本計画の計画期間は令和4年度から令和43年度までの40年間であり、公共施設等の総合的かつ計画的な管理の基本的な方針を定めています。
- 更新等に際しては、国の「多様なPPP/PFI手法導入を優先的に検討するための指針」に示される対象事業について、民間の技術・ノウハウ、資金等を活用するPPP/PFIの導入を検討するとしています。なお、機能としては必要であるものの、現在の規模を維持したまま更新することが不適当と判断される建築物については、複合化または減築等を行うとしています。
- 統合・廃止の実施方針として、本来の設置目的による役割を終えた施設や代替施設がある老朽化施設などについては、適正な配置と効率的な管理運営を目指し、統合・廃止を検討するとしています。また、今後の人口や税収の減少可能性を見据え、民間での代替や近隣市町との共同設置といった広域連携も重要な視点としています。